

質問に対する回答31  
東京外環自動車道 ハ潮パーキングエリア工事

番号	質問箇所	質問事項	回答
1	数量計算書 東埼玉道路ハ潮地区橋梁設計検討業務(下部工計算書)	PA-4(左)の数量計算書について、数量集計表と鋼管ソイルセメント杭数量計算の記載しかございません。コンクリート、型わく、鉄筋質量、足場工の数量計算書をご教示願います。	設計図書に示すとおり、PA-4(左)におけるコンクリートA1-3(J)の数量は231.6m <sup>3</sup> 、D1-1(J)の数量は5.8m <sup>3</sup> 、型わくC(J)の数量は118.1m <sup>2</sup> 、型わくD(J)の数量は3.3m <sup>2</sup> 、鉄筋A(J)の数量は15.185t、鉄筋B(J)の数量は8.014t、鉄筋C(J)の数量は9.248tです。足場工については、数量計算書に示すとおり、168.0空m <sup>3</sup> です。
2	図面(真空圧密工法)、特記仕様書、数量計算書(真空圧密工法 表層排水工)	表層排水工で使用する材料(砂)の規格について、図面、特記仕様書等の交付図書に記載がございません。材料(砂)の規格をご教示願います。	共通仕様書3-4.表層排水工の通りです。
3	数量計算書 連絡等施設詳細設計_調整池工(P1-7-12)、図面 数量総括表(その1)	調整池工数量計算書P1-7-12のブロック積数量集計表におけるコンクリート基礎工の記載がC(F)、D(F)と記載されております。一方、図面の数量総括表(その1)には、B1(F)・B2(F)と記載されております。図面の数量総括表が正しいと考えてよろしいでしょうか。	その通りお考えください。
4	数量計算書 連絡等施設詳細設計_用・排水構造物工数量計算書P1-4-4において、集水ますDc-G・0.7・0.7・1.2がタイプB、Dc-Sp・1.0・1.0・1.0がタイプCと集計表に記載されておりますが、連絡等施設設計図(6/93)連絡等施設 数量表では、両方ともタイプEと記載されております。どちらの記載が正しいかご教示願います。	数量計算書は参考資料であり、連絡等施設設計図(6/93)連絡等施設 数量表の通りです。	
5	図面 数量総括表(その2)	図面の数量総括表(その2)に集水ます(タイプO)が軟弱地盤対策工に1箇所と記載されておりますが、軟弱地盤対策工の図面には集水ます(タイプE)のみ記載されております。集水樹(タイプO)の図面および数量計算書のご提示をお願いします。	集水ますTypeOの図面については、調整池工設計図(3/11)3号調整池 一般図および(8/11)放流施設構造図をご確認ください。また、数量計算書については連絡等施設詳細設計_調整池工数量計算書1-7-9をご確認ください。
6	図面 東埼玉道路(第2期迂回路)設計図 (19/39)	東埼玉道路(第2期迂回路)舗装工平面図の数量表において、切削オーバーレイA、再生密粒度As(t=5~10cm)と記載されております。切削深については平均の7.5cm、オーバーレイの厚さについては基層5cm、表層5cmと考えてよろしいでしょうか。	切削深およびオーバーレイの厚さについては、平均7.5cm、表層については5cm、基層については2.5cmを想定しています。
7	図面 調整池工設計図(11/11)	調整池工 通水管・放流管構造図において、通水管の材料表に本体の数量が5.41本と記載されておりますが、ヒューム管(B型1種)φ1000の1本当たりの長さは2.43mとなり10m当たり4.12本となります。正しい数量をご教示願います。	現在内容確認中ですので、確認でき次第お知らせいたします。
8	積算全般	本工事の採用歩掛年度は令和5年度と考えてよろしいでしょうか。異なる場合は正しい適用年度をご教示願います。	公告日時点の積算基準(R5.7月版)でお考えください。
9	図面「軟弱地盤対策工 ②工区 動態観測器配置平面図(半自動)」	図面「軟弱地盤対策工 ②工区 動態観測器配置平面図(半自動)」には平面図のみが掲載されており断面図が掲載されておりません。他工区と同様に断面図のご提示をお願いします。	現在内容確認中ですので、確認でき次第お知らせいたします。